

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲	第	号
------	-----	---	---

氏 名 尾上 俊介

論 文 題 目

Prognostic Delineation of Papillary Cholangiocarcinoma Based on the Invasive Proportion: A Single-Institution Study with 184 Patients

(浸潤癌成分に基づく乳頭型胆管癌の予後描写：単一施設における
184 症例の検討)

論文審査担当者


主 査 委 員

名古屋大学教授

小寺 泰弘 


名古屋大学教授

委 員

後藤 秀実 

名古屋大学教授

委 員

高橋 雅英 

名古屋大学教授

指導教授

柳野 正人 

論文審査の結果の要旨

胆管内乳頭状腫瘍（IPNB）の臨床病理像は不明な点が多く、IPNB と乳頭状成分を含む胆管癌とは重複する病態でもある。我々は浸潤癌成分の割合に注目し、乳頭状成分を含む胆管癌の臨床病理学的検討を行った。644 例の胆管癌を切除し、乳頭型胆管癌を 184 例、通常型胆管癌を 460 例認めた。前者 184 例は腫瘍全体に占める浸潤癌成分の割合別に分類し、比較した。

本研究では、乳頭状成分を含む胆管癌は浸潤癌成分の増加とともに連続的に進行することを示した。また、浸潤癌成分>50%群と通常型胆管癌とは予後と病理組織学的背景が類似していることを示した。IPNB を定義するなら、浸潤癌成分≤50%群が望ましいと考えるが、IPNB が独立した疾患群か、胆管癌の早期乳頭状病変かは不明であった。

本研究の新知見と意義は要約すると以下の通りである。

1. 乳頭型胆管癌は通常型胆管癌と比較し、特徴的な画像所見を示し、予後が良好であることから、両者を分類することは、診断学的に有用であると考えた。
2. 本研究では、IPNB は乳頭型胆管癌のスペクトルの一部（早期癌）であることを示した。IPNB を独立した疾患として鑑別する意義は乏しいと考えた。
3. IPNB と隣 IPMN は免疫生化学的所見が類似することから、カウンターパートとする説があるが、本研究のデータからは、この説を肯定するものとならず、IPNB をその他の胆管癌と区別する意義は乏しいと考えた。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	尾上 俊介
試験担当者	主査	小寺 泰弘	後藤 秀実	高橋 雅英
	指導教授	柳野 正人		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳頭型胆管癌を分類する診断学的な意義について 2. 胆管内乳頭状腫瘍 (IPNB) を乳頭型胆管癌と鑑別する臨床的な意義について 3. IPNB と膵 IPMN との関係について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力並びに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				